

兵庫県保険医協会尼崎支部

第76回医療と福祉を考える会

# 音楽療法を体験してみよう



兵庫県保険医協会尼崎支部  
支部長 八木 秀満

時下、ますますご健勝のことと存じます。

医療や介護の現場で、認知症の高齢者や知的障害の子どもたちとの会話がすすまないことがあります。そのような方々に音楽を使うとコミュニケーションがしやすくなります。音楽療法とはどのようなものか、実際に老健施設や小児科で音楽療法をなさっている中西幸先生にお話していただきます。簡単な実技も交えての勉強会です。

「医療と福祉を考える会」は、医療や看護・介護に関わる方々に職種に関わりなくお集まりいただき、話題提供をもとにざっくばらんに話し合い、学習する場として開催しています。お気軽にご参加いただきますようご案内申し上げます。

お申し込みは、下記にご記入の上、FAX(078-393-1802)まで。

(担当・わたや整形外科 綿谷 茂樹)

▶日時 5月27日(木) 18時30分～20時30分

▶会場 尼崎市中小企業センター 401号室

TEL:06-6488-9501(阪神尼崎駅より徒歩5分)

▶講師 兵庫県立塚口病院 音楽療法士 中西 幸氏

※お問い合わせは、協会事務局 長澤・荒川・駒ヶ嶺(TEL078-393-1803)まで

(切りとらずに返信してください) **【FAX送状】 078-393-1802**

第76回医療と福祉を考える会(5/27)

参加者氏名	職種

地区( ) 医療機関名( )  
TEL( )

兵庫県保険医協会

# 尼崎支部ニュース

310号

2010年5月25日付

〒660-0055 尼崎市稲葉元町2-11-10 八木クリニック内  
兵庫県保険医協会尼崎支部 TEL06-6417-6600 FAX06-6417-6011

## すぐ実践したくなる楽しい研修

職員接遇研修会「患者さんの接遇心得とクレーム対応」を開催

尼崎支部は5月8日、尼崎市中小企業センターで職員接遇研修会を開催した。毎回好評の大手前短期大学准教授の水原道子氏が「ようこそその心で愛と心を届けよう」と題して講演し、医師や看護師、受付事務ら33人が参加した。

冒頭の挨拶では、いまきたファミリークリニック院長の今北正道先生が「接遇の向上は医療への信頼と医院の印象を一層高めることにつながる。ぜひ明日からの仕事に役立ててほしい」と参加者を激励した。

水原氏は接遇の基本としての挨拶や電話対応の仕方、スタッフ同士のコミュニケーションのとり方、待合室の環境づくりなど説明したうえで、「接遇は決められたものではない。地域性や相手に合わせた接遇で大丈夫。“ここに来たらホッとする”そんな医院づくりが大事」と強調した。また、クレーム対応についてもケーススタディや実践を交えた講演で、参加者からは好評だった。



豊富な具体例を交えて解説



挨拶する今北先生

### 参加者からの声



相手の話の聞き方など参加者はお互いに練習

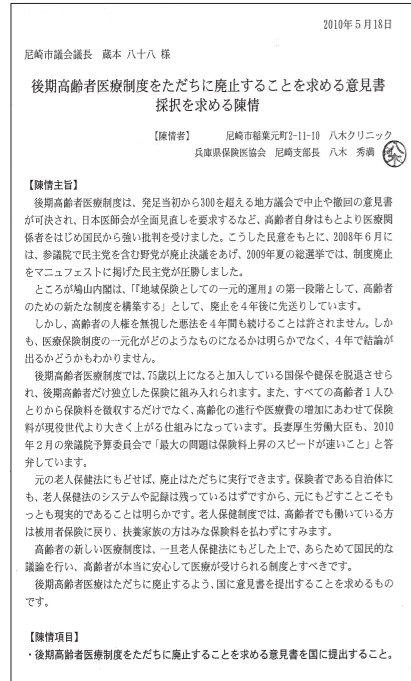
- ・水原先生のお話がとても楽しく2時間があっという間でした。(医療事務)
- ・患者さんに待ち時間をどうしたら居心地よく感じてもらえるか、例がわかりやすくよかったです。(医療事務)
- ・笑顔で目を見て話すといったあたり前のようできていないことに気付いた。患者さんの話を聞くときの対応など、今まで曖昧な態度をとっていた部分があった。(医療事務)

・地域の情報を常に意識して話題に取り入れるなど、具体的なアドバイスをもらって非常に良かった(受付)

・時間に追われ心に余裕がなくなり、基本的な対応ができていなかったことに気付いた。相手の立場にたって十分な対応ができるように心がけていきたい(看護師)

・クレーム対応についてどうしたらいいかわからずいつも人任せだったので、今日教えていただいたことを役立てていきたいと思う(歯科助手)

# 後期高齢者医療制度廃止等求め6月市議会に陳情提出

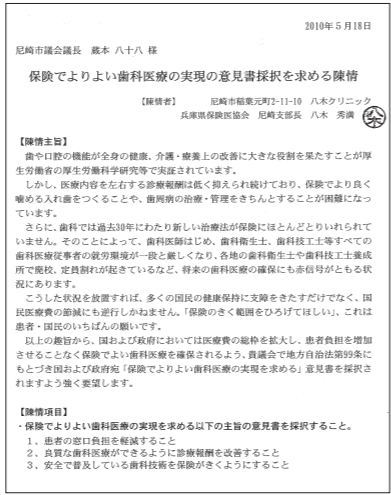


尼崎支部は、6月市議会に対して、「後期高齢者医療制度の廃止」「保険でより良い歯科医療の実現」について、国に意見書の提出を求める陳情を行った。

国民から強い批判を受けた後期高齢者医療制度は、昨夏の総選挙でその廃止をマニフェストに掲げた民主党が圧勝したにもかかわらず、鳩山内閣は廃止を4年後に先送りしている。高齢者の人権を無視した悪法を4年間も続けることは許されず、一旦、従来の老人保健法にもどした上で、あらためて国民的な議論を行うべきである。陳情では、「後期高齢者医療制度をただちに廃止」すべく、国に意見書を提出することを求めている。


また、歯科医療については、診療報酬が低く抑えられ続けられ、安全性が定着した技術のほとんどが保険導入されておらず、経済的不安から

歯科受診を手控える国民が少なくない。保険でよりよい歯科医療の実現をめざし、「患者の窓口負担軽減、診療報酬の改善、安全で普及している歯科技術の保険導入」について、意見書の提出を求めている。



**患者負担大幅軽減、後期高齢者医療制度の廃止を求める  
請願署名付ポケットティッシュ**

署名ハガキ付きリーフレット等と合わせて会員医療機関に近日発送予定！医院の待合室などでご活用ください。  
追加注文も承ります。TEL：078-393-1807 まで。





「年金天引きやめて」と署名する男性

## 尼崎社保協が恒例の街頭宣伝を実施 「高すぎる国保料引き下げて！」

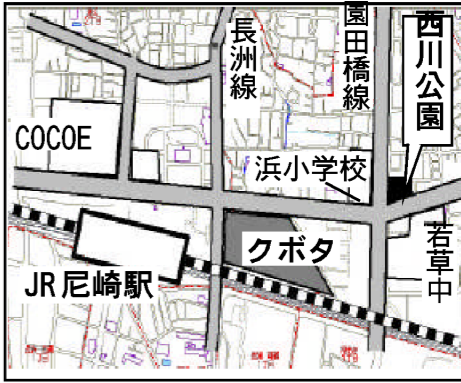
尼崎社会保障推進協議会は、5月15日に阪神尼崎駅前で行った国保料引き下げを求める街頭宣伝を実施し、9人が参加した。「県下一高い国保料の引き下げを」との呼びかけに、1時間で96筆の署名が集まった。

6月には国民健康保険料の通知が順次発送されることから、同会では6月14日(月)と15日(火)の二日間にかけて尼崎市役所前で署名行動を行う予定。

## 尼崎アスベスト訴訟

5月30日(日) 午後2時 浜小学校東・西川公園  
▶「クボタ旧神崎工場包囲 人間の鎖行動」 誘い合わせてご参加を

協会も参加している尼崎アスベストの会は「クボタショック」から5年を迎え、クボタの責任と、国の不作為を広く訴えようと、クボタ旧神崎工場を包囲する「人間の鎖行動」を行う。



包囲行動は5月30日(日)午後2時から、尼崎市内、浜小学校東の西川公園(JR尼崎駅から北東へ徒歩8分)で出発集会のあと、クボタ旧神崎工場の包囲を予定している。

実行委員会では、1,000人以上の参加で工場を包囲しようと呼びかけている。

会員、職員、ご家族、患者さんお誘い合わせてご参加ください。お問い合わせは、「5.30クボタ包囲 人間の鎖実行委員会」事務局・アスベスト被害からいのちと健康を守る尼崎の会(TEL:06-6489-2600)まで。

## ▶ 環境、労災、行政訴訟 3つの裁判に傍聴支援を

クボタ旧神崎工場周辺で環境暴露によるアスベスト被害を訴えている山内康民さんらの裁判の口答弁論は3月29日に15回、5月17日に16回目を迎えた。

また、クボタの下請け会社でアスベストの運搬作業に従事し、アスベストによる死亡が判明した山本美智子さんらの労災型裁判は4月19日に3回目の口答弁論が、肺がん発症当時アスベストによる労災認定がされず、その後労災認定はされたものの休業補償については不支給処分とされた松本博氏の行政訴訟は3月5日第2回、5月18日第3回目の裁判が開かれた。

いずれも、クボタ旧神崎工場からのアスベスト飛散の有無や、孫請け会社への雇用責任、当時の国の石綿対策の不作為、労災保険とアスベスト救済法の救済基準が争点。クボタや国は一貫して責任を認めず否認しつづけており、怒りが広がっている。

## 泉南アスベスト被害国家賠償訴訟 一国の不作為認める 全国初 元労働者には認めるも、周辺暴露は因果関係を否定

大阪府南部の零細紡績工場の元労働者らが国の不作為を訴えていた泉南アスベスト国家賠償裁判で、大阪地裁は19日、国にたいして29人の被害者に4億円余の賠償責任を認めた。これまで企業責任を認める判決は出されているが、国の責任を認めた判決は画期的で、全国初。国は控訴をせず、被害者全員の救済システムをつくることが求められる。

なお判決は、元労働者には認めたものの、工場周辺の被害者については因果関係を否定する不当な判断を示したことから、加害企業クボタ工場からの飛散による環境暴露責任を求めて訴訟中の尼崎アスベスト裁判にとっては厳しい判決となっている。